

大学入試のあり方検討会議 外部ヒアリング発表資料



令和2年6月16日(火)

茨城県立土浦第一高等学校 井坂 直樹

自己紹介

- 数学科 教員歴16年目
- 直近の勤務校
 - 今年度～ 茨城県立土浦第一高等学校
3年担任，進路指導部
 - ～昨年度 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校（9年間）
昨年度は3年担任
→ 両校共に生徒のほとんどが4年制大学進学志望
大半の生徒が入学試験は一般受験で臨む
- 大学受験に直面する生徒を2年連続で担当する立場
数学教育に関わるの一教員としての立場

昨年度の経験から

- 様々なところから聞こえてきた「**超安全志向**」
 - その要因の一つが「**共通テスト**」
 - 生徒以上に保護者が心配している印象
- そもそも変化に敏感な（弱い?）生徒の気質
 - センター試験後の決まり文句
- 「本質を理解していれば，出題形式が変化（＝共通テスト）しても恐れることはない！」
 - いわゆる浪人生数は例年とあまり変わらない。

昨年度の経験から

- 当時， 2年生のある生徒とのやりとり
 - ・ 英語民間試験活用はとても心配
 - そもそも受験資格がなくなるケースもある
準備が早期から始まったので実感がある
 - ・ 記述式問題に関してはあまり・・・
 - 実際に体験する前に延期になってしまった
導入されたとしても学校の指導で十分対応できる
→ 学校への信頼， 潜在的な期待（要望？）

➡ 漠然とした「**反対**」， 目前に迫り初めて実感する「**不安**」

今年度の生徒の様子

- 6月8日(月)より通常登校再開
 - ・ 3月の休校期間を合わせると約3ヶ月間学校生活がない
 - 試験制度や形式変更に対する不安よりも、そもそもの学習に対する不安が強い
 - 学校による生徒特性の違いも
- ➡ 共通テストに対する「感情」が表れるのはこれから？
生徒たちは与えられた条件の中で頑張ろうとしている

自らの経験からの意見

- 共通テストにおける記述式試験の導入に関しては慎重に検討を重ねていただきたい
 - 大学入試が与える教育現場への影響は大きい
- 記述式試験は大学毎の個別選抜での活用が望ましいのではないかと
 - ・ 共通テスト受験者全員に対して求める思考力・判断力・表現力を的確に評価することはできるのか
 - 少なくとも受験生・保護者は不安を感じる
 - ・ 大学毎に問題を設定した方が、より評価できるのではないかと。
 - 「論理的な思考力や表現力を育て伸ばすことの重要性」